

2022 ロアッソ熊本サポーターミーティング議事録

◎開催日時：2022年6月18日（土）10:00～11:30

◎開催場所：えがお健康スタジアム（ミーティングルーム1）

◎クラブ出席者：

代表取締役社長	永田 求
専務取締役	藏原信博
取締役ゼネラルマネージャー	織田秀和
事業部部長	岩水香織
ホームタウン推進部部長	古賀 亮
営業部部長	片山良二
事業部運営担当	櫛野 亨

◎サポーターミーティング参加者：28名（50名募集に対し33名参加申し込み）

◎司会：一般社団法人ロアッソ熊本スポーツクラブ代表理事 宮崎幹士

●司会〔ロアッソ熊本スポーツクラブ代表理事 宮崎幹士〕

サポーターの皆様、本日はお忙しいところ、サポーターミーティングにご参加いただきまして誠にありがとうございます。只今より、サポーターミーティングを開催したいと思います。

●サポーターミーティング開催にあたって〔代表取締役社長 永田 求〕

改めまして、おはようございます。今日は早い時間から、ご参加いただきましてありがとうございます。

日頃からチームはもとより、「県民に元気を、子どもたちに夢を、熊本に活力を」を理念として活動するアスリートクラブ熊本に対しても、力強く背中を押していただき、大変感謝をしております。J3に降格して3年、そして2年と数か月前に新型コロナウイルス感染症がやってきました。厳しい戦いが続く中、J2に復帰し、コロナに対しても充分ではないまでも、やっと明るい兆しが見え始めた状況にあります。さあこれからだという時に、気持ちが緩み、いくつかの問題が生じました。その対応に対し、なかなかうまく情報収集ができず、会社も若干そういう面で混乱をした部分があります。みなさま方に不安や不満、いろんなものを与えてしまったということを大変反省しております。その中で、このように今日サポーターミーティングを開催することができ、これを機会に更に絆を深め、いい方向に向かえるように頑張っていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

《マスコミ各社のみなさまはここで退出》

●5/27 クラブ公式サイトで発表した内容について（専務取締役 藏原信博）

5月4日に行われましたアウェイ・第14節・横浜 FC 戦で声出し行為があったという事案、それに伴いまして、アウェイでの「カモンロッソ」自粛、5月21日ホーム・第17節・ジェフユナイテッド千葉戦での声出し行為についての事案を、私どもがまとめてリリースしたため、先ほど代表が申しあげましたように、混乱を招いたということで、私どもの対応のまずさ、それにまずはお詫び申し上げます。

「カモンロッソ」につきましてですが、J2当時の選手たちが共に闘ったファン、サポーターのみなさんと勝利の喜びを分かち合おうという思いで始まったパフォーマンスであります。私たちも非常に大事な勝利の儀式であり、大切なパフォーマンスであるということは皆さんと同じ思いです。

ただ、現在のJ2リーグは、22チーム中11クラブがJ1経験クラブということで、以前の私どもがいたJ2・J3リーグのときと環境が大きく異なっています。アスリートクラブ熊本としましては、トラブル回避、ファン・サポーターの皆様を始めとしたお客様の安全を担保するため、またアウェイ戦における対戦相手のチーム・サポーターを思いやる、配慮するという意味でリリースしたのですが、それをリスペクトという言葉で一括りにして発信したということで誤解が生じているのではないかと思います。

これに対しまして、県内外の多くの皆さんから賛否両論のご意見をいただきました。様々なご意見を受け、クラブ内で数度ミーティングを行い、他クラブからの情報や状況を確認させていただきました。その結果、「アウェイ戦でのカモンロッソ自粛」をこの場で撤回させていただきます。

ただ試合の持つ意味合い、その試合その試合で意味合いがあるかと思いますが、そういった状況により、自粛した方が良い場合もあります。アウェイ戦ではその可否につきましては、その都度、いろんな情報、状況を確認し、その可否を決めさせていただきたいと思っております。

つづきまして、5/21 ホーム・第17節・ジェフユナイテッド千葉戦における声出し行為があったという事案がありました。正式に当事者が特定できていますので、本人を呼び出し、面談を行いました。声を出した経緯などを聞き取り、今回は嚴重注意とし、改善が見られない場合は、更に重い処分を科すということで通達しました。

今回の千葉戦以外でも、この当事者が迷惑行為や声出し行為をしているとの報告がありました。ただし、これにつきましては、クラブでは、当事者の確認、またどの試合でどういう状況で声出しをしたかという正確な情報が特定できていませんので、特定できた今回は嚴重注意という処分をいたしました。報告を受けました事象につきましては、社内の共有不足もあり、対応が後手後手にまわった事についてはお詫び申し上げます。

千葉戦以外での声出し行為があったということに対しては、私どもは明確に把握できませんでしたので、今回は嚴重注意処分のみさせていただきました。

5/4 アウェイ・第14節・横浜 FC 戦での声出し行為につきましては、横浜 FC の運営サイド

からも指摘がありました。現地サポーターの皆様からも声出し行為があったとのことでしたので、その確認をし、リリースしました。

東京応援団という文言をリリースの中で出しましたが、東京応援団が声を出した、ということではありません。その場にいたサポーターのどなたかが声を出したという認識をクラブではしていますので、声を出したのが誰かは特定できていませんでした。ただし、東京応援団の皆様には関東近郊では中心になって応援していただいていますので、今後の試合では声出し行為がないよう注意喚起をおこない、リリースをさせていただきました。

それと、もうひとつ、4/3 ホーム・第8節アルビレックス新潟戦での事案につきましては、新潟サポーターの方から改めて聞き取りを行い、その情報を受け、当事者と思われる熊本サポーターとの聞き取りの日程を調整中であります。そこでの事実確認、新潟サポーターさんからの報告だけではなく、当事者と思われる熊本サポーターからも聞き取りを行い、その結果は、改めてこの件に関してのリリースを今後予定しています。

●司会〔ロアッソ熊本スポーツクラブ代表理事 宮崎幹士〕

大きくは、カモンロッソの件、アウェイ横浜戦で声出し、新潟戦でのサポーターとの件、ということで、説明させていただきました。

ここで皆様方から、ご質問等ございましたら、挙手にてお願いしたいと思います。

【ご質問】

今のお話の中で、J2 リーグも元 J1 経験クラブが多くなったので状況が変わったというお話しでしたが、それは、アウェイスタジアムのリスクが高まったということでしょうか？

〔専務取締役 藏原信博〕

具体的にアウェイのリスクが高まったということではなく、たとえば熱心なお客様がおられるというのは事実です。それと数も多くなります。数が多くなりますと、いろんなサポーターの皆様がおられ、いろんな考え方、行動等も出てきますので、熱心がゆえにちょっと過剰な言動が発生する場合もあり得る。J1 は熱いサポーターの皆さんもおられますので、そういう意味で言わせていただきました。

【ご質問】

今日は撤回をされましたけれども、それまでのご判断というのはやはり、リスク排除のために、一旦、カモンロッソはアウェイではやめようご判断をされたということでしょうか。

〔専務取締役 藏原信博〕

リスペクトという英語を日本語に訳すといろんな解釈、ニュアンスがあるみたいなのですが、私どもがそれを十把一絡げに、リスペクトという言葉でリリースして、それが誤解を生んだことがひとつございます。やっぱりひとつは、先ほど申し上げましたように、安全面ということが実はあった

のですが、それを明確にうたっておりませんでしたので、私どもの説明不足とっております。それと、もうひとつは、相手チームを慮ると言いますか、私も運営していて、負けたときは悔しくて悔しくて、もう早くこの場が終わらないかなと、個人的にそういう状況があるのですが、そういう意味ではやっぱり、負けたチームの選手、サポーターのみなさんに、相手を慮るという気持ちは持たないといけないのではないかというクラブの考えで、自粛を決定いたしました。

ただその後、いろんなご意見、賛否両論を県内外からいただきました。カモンロッソの重要性、皆さんが大切に思っていることは十分私どもに伝わりましたので、何度も社内でミーティングを重ね、他クラブの情報も確認した上で、状況判断でカモンロッソをさせていただこうということにいたしました。

【ご質問】

アウェイの試合ごとにホームチームにやっていいかどうかの確認をとりながらやるということでしょうか。

〔専務取締役 藏原信博〕

それも実を言うと、ちょっと失礼な話なんです。試合前に、うちが勝ったらカモンロッソやっていいですかというの、ちょっと相手に失礼でもあります。まだ試合前です。たとえば、その試合が、降格もしくは昇格とか、その試合の性格ですね、そういうのも見て、もちろん失礼にならないような相手の運営の方々に、もしそういうことになって、もしうちが勝利のパフォーマンスをやっても問題にならないかとか、もしくは、皆さんが一番ご存知だと思うのですが、相手サポーターの性格がございますよね、そのチームチームの。そのようなこともできるだけ相手に失礼にならないように情報をとりながら、可否の判断をさせていただこうと思っております。

あまりあからさまに、やっていいですかと言うと、ちょっと相手に、これこそ、まだ試合前なのにあんたたちは勝ってからのことを言うのかとういこともあるかと思っておりますので、そこは、相手の方々に気を遣いながら、いろんな情報を確認させていただいて、判断させていただきたいと思っております。

〔ロアッソ熊本スポーツクラブ代表理事 宮崎幹士〕

今回の件で、他クラブがどういう状況かというリサーチをさせていただきました。運営の櫛野の方から、他クラブの状況を参考までにお話しさせていただきたいと思っております。

〔事業部運営担当 櫛野 亨〕

今回のリリースを受けて、いろんなご意見がある中で、Jリーグ全57クラブの運営の方に、メールで、ホームで行っている勝利パフォーマンスをアウェイで行ってますかという質問をしました。もうひとつが、ホームのときに相手チームに、今日勝利パフォーマンスを行わないように通達していますかという2つの質問をしました。

その中で、23チームから回答をいただき、ホームで行っている勝利のパフォーマンスをアウェイでも行っているかは、13チームはやっている。残り10チームはやっていない、ということだったの

ですが、もともと勝利のパフォーマンスが無いチームもありましたので、聞き取りした中では、ホームでやっていることをアウェイでもやっていますという意見が多かったという結果になりました。ホームでやっているようにフルで勝利パフォーマンスをやっているかという、ホームの勝利パフォーマンスを簡略化したり、短くしたり、いろいろ配慮されているというのがあります。この検証結果を踏まえて、今回決定に至ったということになっています。

アウェイでわざわざリスクを犯してまで試合後はしないと徹底されている J1 クラブもあります。各クラブの運営の組織力だったり、やり方でいろいろやられているということが分かりました。このような意見を参考に、今回の撤回ということにさせていただきました。以上です。

【ご質問】

やはり今回のポイントは、リスペクトの発言だと思うのですが、本来リスペクトに欠ける行為というのは、罵声を浴びせたり、挑発行為をしたり、そういう行為を指すものだと思います。それをカモンロッソと同じように捉えたということが、すごく憤慨しているところなのですが、そこをどうお考えなのかをお願いします。

〔専務取締役 藏原信博〕

先ほども申し上げましたとおり、リスペクトという英語に対する日本語訳というのは、いろんな訳し方があります。皆さんの受け取り方もいろいろあります。ある意味、リスペクトという言葉に限らず、英語というのも和製英語みたいになってちょっと変化している部分もあるかと思うのですが、私どもの思いとしましては、やはり敵地で勝って勝利のパフォーマンスをする、いわゆる、罵声を浴びせるとかそういう意味ではなくて、そこで喜んでいる、それは私どもにとってはやりたい行為だと思うんです。でもそれをやることによって、傷に塩を塗ると言いますか、相手チームサポーターにとっては、なんだ、うちまで来て勝ったのはわかるけれど、傷に塩を塗るようなことまでするな、というように思われるかもしれない。そういう意味でのリスペクトという使い方を私どもがしたものですから、それはちょっと私どもの説明不足、言葉が足らずでした。それはやはり先ほど言いましたように、相手を慮る、ということで私どもは、リスペクトという言葉の訳したつもりでした。それが伝わらなかったなというふうに思っておりますし、そこは反省しております。

【ご質問】

日頃から、県民に元気を、子ども達に夢を、熊本に活力を、というクラブ理念を長く続けていただき、ありがとうございます。熊本に誇れる、世界に誇れると思います。それに対しては、すごく感銘を受けているのですが、私はクラブ理念は大好きでして、子供たちに夢をということで、出来る限り子どもを連れてスタジアムに来ています。

千葉戦であのようなことが起こって、私達の 50m くらい離れたところでそういうことがあり、実は、あれだけではなくて、上の方でも騒ぎが起こっていて、まわりで大声が出ていて、その場で身動きができず、子どもも怯えているし、どこにも逃げ場がなくて、なんとかその時は帰ることができたのですが、1週間たっても子どもはこわいと言うんです。それ以降は子どもを連れて来られませんでした。

私がサポーターを始めたときは結構以前で、県民の皆さんと地元企業や自治体含めて努力していただいて、プロチームになって、Jリーグにもなって、今もうJ1行けるんじゃないかという夢みたいな状況になっていて涙が出るくらいなんですけど、夢を与えるクラブがなんで子どもの夢を壊すようなことをするのか。なぜ注意だけで済むという判断なのかが理解できないのですが。

〔専務取締役 藏原信博〕

先ほどもお話しさせていただきましたけれども、サポーター団体の代表の方と、声を出したという当事者の方に来ていただいて、お話しをさせていただきました。そのときにも話しましたが、コロナの影響もあり、コミュニケーションをとるということが、この2、3年できておりませんでした。また、私どもの対応の悪さとかもあり、皆さんの声を聞けなかったということが根底にはあるかと思えます。

お三方に来ていただいたときに、私が最後にお願ひしました。元のロアッソのファン、サポーター、ゴール裏は、普通サッカーは怖いというイメージがあるなかで、ロアッソのゴール裏はほんとに楽しい。1回行ったらまた行きたくなりました。怖さは全然ありませんでしたという、元J2時代に、そういう話を聞いておりました。

当時、子どもたちに応援のやり方を教える教室も、ロアッソのサポーター団体の皆さんが企画していただいて、子どもさんも楽しくしていただいて、今やそれが無い。これを機に今後それあたりもひっくり返して、ロアッソ熊本ファン・サポーターは素晴らしい日本一のサポーターだと言われるようなことを、一緒につくりあげていきたいと思います。これは私どもが願ひするのではなくて、一緒につくりあげていきたいと思います。そのためには、こういったサポーターミーティングも、コミュニケーションをとる場を設けながら、お互いの意見を出し合って、いいクラブ、いいサポーター、いいロアッソファミリーをつくりあげたいとお願ひしました。

その時にお話しした方々も同じような思いがありました。やはり人間なものですから、感情的に、私どもの対応の悪さに対してお叱りをしたということでした。その方も、私は出入禁止でもいいです、でもロアッソの皆さんをもう少しきちんとしてもらわないと困りますと、お叱りを受けました。私どもとしましては、私どもの責任もありますし、今回は嚴重注意ということでお伝えしました。ただし、もし今後そういうことがあったら、出入禁止にさせていただきますということまで明確にお伝えしました。

その後は、こうした違反行為があったという報告はございません。今日もホームゲームがありますけれども、おそろくないと思いますし、その方も非常に反省されておられて、そういうことは一切しないようにすると私どもにおっしゃっていました。そのお知り合いの方々も同じ行為をしたということでしたので、その部分も含めて嚴重注意とさせていただきます。

これはクラブの判断ですけれども、いきなり悪いことをして厳罰というよりも、1回はチャンスを与えたい。やはり私どもを支えていただいている大事なサポーターでもあります。ですから、1回はチャンスあげますので、その後、何かありましたら厳しく対応させていただきますと、お伝えしました。

【ご質問】

子どもは、そのような行為をされると刷り込まれてしまう。子どもはサッカーどころではない。子どもよりもサポーターを優先させたいということか。子どもたちの夢を壊してでも、来ていただく人はどんな人でも来てもらうということか。

〔専務取締役 藏原信博〕

そういうことでは全くございません。今、申し上げたとおりなのですが、皆さんに楽しく安全なスタジアムを提供するというのが私どもの大前提です。それは間違いありません。ただ、さきほど言いましたように、私どもとしては、その方がやったというより、その方と色々な話をしましたが、クラブ自体として、どの試合でどういう行為をしたかという正確な情報を掴んでいない中で対処するというのは無責任になります。確定すればきちっとやります。私どもの努力不足もあり、情報が不足している、ということでもあるんですが、いずれにしてもクラブ自体の統一した情報把握ができていなかった為、今回の処分に至りました。当該者がどの場所でどういう行為をしたということをクラブ自体が確認できていれば、きちっとした対応と言いますか嚴重注意以外の対応があったかもしれません。私どもとしてはそこが明確に、どの人がどの試合でどういう行為をしたかというのをつかんでない、ということで、先ほども申し上げたとおり、嚴重注意という処分にさせていただきました。子どもさんよりもサポーターが大事、子どもさんもサポーターなんですけれども、そういうことは全くございません。

【ご質問】

たとえばですが、子どもたちから離れてもらうといった対処というのはできないのでしょうか。

〔専務取締役 藏原信博〕

先ほどから申しましたように、もしそう言うことがあれば、子どもさんたちから離すのではなくて、その人たちを排除します。それが確定ができなかったということと、嚴重処分ということでお話ししましたので、その方はたぶんもう遵守されていると思います。そのあとも、ホームゲームでもそういう行為はございませんでした。あの方が声を出してるよという話も、私どもが呼んでお話しした後は出ておりません。ですから、反省しているというふうに理解しております。今後もし出ないと認識しております。ただ、もし出たら、その時は嚴重な、これ以上の重い処分を考えております。

【ご質問】

あの方達はグループなのでしょうか。

〔専務取締役 藏原信博〕

あの方というのが、どの方で、どういうグループなのかというのは特定できておりません。

【ご質問】

今の話の続きになるかもしれないのですが、最初の説明が長くて、よく話がまだ理解できないところもあるので、今の話の続きからということでさせていただくと、クラブとしてあたかも当然のように、誰がやったか断定できていませんとか言っていますが、まずはそれがおかしいのではないかなと思っています。千葉戦の話だけではないですが、ホームの新潟戦の話であったり、5/4の横浜の話が、5/27にリリースされたり、対応が全部後手後手になっていると最初おっしゃられていました。それが分かっているのであれば、なぜ先回りしないのですか。今後どうしていくのか、どういう対応をお考えなのか、できれば社長にお聞きしたいと思います。

〔代表取締役社長 永田 求〕

最終的な、結論的なものは私が最終決定者になりますので、今、専務がお話ししたように、今後何かあったら即そういうようなことでやっていく。ただ、現段階では私たちも情報を持っておりません。ですから、今の段階でどうするということはできませんけれども、方向としては間違いなく、みんなが楽しく応援できるような雰囲気をつくるのが私たちの使命ですので、そういう面ではみなさん方から情報をいただきながら、やっていきたいと思っています。

【ご質問】

情報をいただくだけで、クラブとしてたとえば、警備員を増やすとか、そういう具体的な話はないのでしょうか。

〔専務取締役 藏原信博〕

いえ、先ほども申し上げました、私どもとしては大いに反省しておりますし、後手後手にまわってしまったのは事実でございます。その対策としてどうしていくのかというご質問だと思いますが、私どもはホームゲームの試合ごとにミーティングをやります。おとといもミーティングを行いました。その中で、私どもは以前のJ2時代、それとJ3時代、ある意味少しぬるま湯に浸かっていたということがあるのではないかなというようなことを社員全体で認識しました。そして、今後最大限に目配り気配りを強化し、何かあればすぐ証拠をおさえるというようなことも含めて、注意深く周りに配慮した運営をやろうということを申し合わせました。私どもだけでは目が届きませんので、私どもの運営を手伝っていただいているボランティアのみなさんにもお願いして、何か事案が起きたらすぐ連絡していただき、私どもに報告してくださいということもお願いしていこうと思っています。例えば、カメラなどを活用して物的な証拠となるものをおさえ、そこでいろんな判断をしていくこともひとつの方法かもしれません。

実はスタジアムに監視カメラがあるという話も聞いたんです。それを使おうかなと最初思ったんですが、カメラが実際使用されてないということもあったので、非常にアナログではありますけれども、今言ったようなことでとりあえずやっていくしかないのかなというふうにも思っております。皆さんからの意見も聞くかもしれません。話も聞くかもしれませんが、私どもからのお願いでもあります。何かあったら、物的な証拠をいただければ、それも判断材料のひとつになるのかなと思います。いろんな目、いろんな耳を私どもにお貸しいただければありがたいと思っています。

そこは皆様にご協力をいただければと思います。

新潟戦のときも、新潟のサポーターの皆さんに、そういった行為があったということを、できるだけ詳細に、たとえば人相やら背丈だとか男女だとか、わかる範囲、プラス、音声だとか映像だとかがあったら送ってくださいと新潟さんに言いました。ただ、やはり音声とか映像とかはないんですね。新潟さんの言い分だけなものですから、私どもとしては両方から話を聞かないとその整合性がとれません。私どものサポーターの皆さんには先ほど最後に言いましたように、まだ聞き取りができておりません。ですので、その聞き取りをしながら最終判断をしたいと思います。

今、おっしゃいましたように、今後はできるだけ物的証拠があれば私どもとしてはその判断の大きな材料となりますので、それをやっていこうかなと思っております。逆に言いますと、先ほど言いましたように、みなさんもカメラとかで、こういうことがあったぞ、ということであればぜひご提供いただければと思います。

【ご質問】

みんなが粗探しではないですが、悪いところを見つけて、動画を撮ったりとか、そういうスタジアムが嫌なんです、仕方がないのかなとも思いますし、そういうところを含めて、運営も含めて、チームとともにJ1を目指したいとサポーターも思っていますので、よろしくお願いします。

〔代表取締役社長 永田 求〕

いま見ていると、ゴール裏が以前ほどまとまっていなかったというか、ひとつは、カモンロッソのときに移動できないとかそういうことあるんですけど、試合中も、前に比べるとサポーターの数が減ったのかな、コロナのせいかなとかそういったことを社内でいろいろ話すこともございます。こういう問題が起こった時に、きちんとした対応ができるかできないかというのが、ここで今、我々がきちん乗り切れば、また前のように模範となるロアッソサポーターのひとつの形が確立されていくのではないかなというように思います。いま、おっしゃられたように、告げ口するような嫌な気持ちになるのは当たり前だと思いますけれども、これは長い目を見て、良くするために今はご協力いただければありがたいと思っております。

【ご質問】

今後ないとは思いますが、もしこういったことが起きた場合、窓口というか、どこにどう言えばいいのでしょうか。

〔専務取締役 藏原信博〕

試合のときには、運営の責任者は運営担当でございます。ご存知ない方は、社員にひとこと言っていただくと、全部運営担当に伝わるようにしておきます。近くの社員にお伝えいただければと思います。

【ご質問】

監視カメラを今使っていないということでしたら、再稼働させることはできないのでしょうか？

〔専務取締役 藏原信博〕

検討してみます。私どもの施設ではないものですから、勝手にするわけにはいかないので、使っていない理由はなんなのか、故障しているのか、お金がかかるのか確認できておりませんので、それは施設側に確認してみます。

【ご意見】

暴力行為だとか威嚇行為だとか、いろいろなものの抑止力にするということを考えたら、やはりサポーターの身内同士でギスギスした感じにはしたくないというのが本音です。やはり J1 だったり、J2 もそうですけど、他のクラブで問題ごとがおきたときは、スタジアムのカメラで特定するというのが一般的というのが自分は認識がありますので再考願いたいです。

検討しますというところの、いつまでにということを示していただきたいです。

〔専務取締役 藏原信博〕

わかりました。ありがとうございます。

※スタジアムの設置カメラについては、その後、施設側に確認、調整し、6月18日当日の水戸ホーリーホック戦で試験運用を行い、6月25日ホーム・第23節・大分トリニータ戦から運用することにいたしました。

【ご質問】

ロッソ熊本時代から見に来ていました。赤白帽子をかぶって行ったら、子どもはタダで観戦できるという時代から見ていて、熊本を離れて U ターンでまた帰ってきて、今また見に来ている状況です。そのとき、ロアッソ熊本を見たときに楽しかったのが、子どもの時に見ていて楽しかったから、いま見ているというのは間違いなくあります。だから、子どもの気持ちを踏みにじるのはあまりよろしくないと思うところです。でも、私はロアッソを見ていることが生きがいで、いつも楽しくロアッソを応援しています。

千葉戦で大声を出していらっしゃった方は、アスリートクラブ熊本へのお叱りの言葉であったということでしたが、具体的にどういうお叱りの言葉があって声を出したのでしょうか。発言内容を知りたいです。

〔専務取締役 藏原信博〕

他の方がどう聞いたかは分かりませんが、私が聞いたのは、私どもの運営を管轄している責任者を呼ぶ言葉でした。その時には運営担当がその方を特定できましたので、後日、来ていただきお話をしました。先ほどから何回も申し上げていますが、私どもの対応が悪いというのが原因のひとつにあります。以前の問題に対してロアッソがきちんと対応していないじゃないか、何やってるんだと

という意味で言いました、とその方はおっしゃいました。

【ご質問】

運営がうまくいってなかったというのは、具体的にどこの部分を指すのか。

〔専務取締役 藏原信博〕

先ほども言いましたように、私どもはクラブ自体として認識、確認してなかった。声出しているよ、子どもさんが怖がっていたよという話も聞いていますけれども、クラブ自体はそれを特定できなかったというのが一つあったものですから、クラブとしても対処法を外に対して言ってなかったのですが、それに対してクラブは何をしているんだと。その方が言われたのは、5/21 千葉戦ではなくて、5/4 横浜 FC 戦で声出しがあったことを自分はクラブに言っているのに、何もクラブはそれに対して情報発信してないということを言われました。

【ご質問】

喫煙所が廃止された理由というのは何ですか？

〔事業部運営担当 榎野 亨〕

喫煙所に関しては、まず、たぶんみなさんの中では4/3 ホームゲーム・アルビレックス新潟戦でトラブルが起こったからだと思われていると思いますが、喫煙所の中でトラブルが起こったわけではなく、アウェイゲート（1ゲート）に喫煙所が近かったために熊本サポーターと新潟サポーターが接触したということがあり、それを受けて、アウェイゲートを反対方向（2ゲート）に移動しました。喫煙所はそのまま残してもよかったのですが、ホームとアウェイが喫煙場所で一緒になるというのも、今後トラブルの可能性もありますので、喫煙所を2箇所設置できないかとスタジアムに交渉しましたが運動公園内なので、どうしても新たに設置するのが不可能ということで、いったん閉鎖しましょうと、いろんなところと調整して撤去したという流れになります。

そのあと関係各所と調整した結果、今日（6/18 水戸ホーリーホック戦）からまた喫煙所が復活します。ホームとアウェイの間にしっかり仕切りをして、同じ場所で喫煙することができるようになります。皆さんが思っているようなトラブルが直接の要因で喫煙所を廃止したということではありません。

〔専務取締役 藏原信博〕

補足させていただきます。今の時代というのはタバコを吸うと言うのは、私も実は吸うんですけども、隅っこに追いやられます。そういうのがひとつあるのと、運動公園という施設の性格上、タバコというものは基本的には相反する部分であり、県の方針としては、喫煙所を基本的に運動公園に置くのはおかしいというのがあります。片方ではやはり喫煙者へのサービスという意味で置かないといけないというのがあります。

以前よりも、運動公園内にある喫煙所は数が減って、特定の場所にいくつもあるだけです。現実的にはそうなっています。昔よりもかなり減っています。今、みなさんが吸っていただいていた喫煙

所はラグビーW杯のときに、そういう、いわゆる定位置の喫煙所、常時吸える喫煙所は場所が遠いので、臨時の喫煙所ということで、県が特別に認めたエリアです。

私どもの試合の時もそれ以降、臨時喫煙所として運用していたわけですがけれども、冒頭申しましたように、時代が変わり、サポーター同士のトラブル等が出てくる可能性が高くなった中で、喫煙所でホームもアウェイも一緒になってタバコを吸うという環境が、トラブルを起こす下地になります。そこで喫煙所を移動し、ホーム・アウェイを分けようと思ったのですが、現在の臨時喫煙所以外は認められないとの県の意向があり、喫煙所は廃止しようというクラブ判断にしました。ただその後、喫煙所をなんとか設けてくれないかという要望をいろんなところからいただきましたので、事業団、県当局等と打ち合わせをし、ホームとアウェイのサポーターが交わらないようにして、1箇所だけ設けられている臨時の喫煙所をそのまま使うことにしたという経緯でございます。

【ご意見】

あのリリースのときに、できれば理由とかを言わないと、憶測がどんどん広まって、何かあったんじゃないかという不安に繋がるおそれがあるということを考えて上で、理由を言うのか言わないか考えて、発信していただけたら嬉しいです。

〔専務取締役 藏原信博〕

おっしゃるとおりです。先ほどのリスペクトもそうです。私どもの言葉足らずで、情報発信したのですが、いろんな誤解を生じさせてしまいますし、今、ご指摘のように喫煙所の問題も、みなさんが納得できるようなリリースをしないといけなかったと反省をしております。今後は、奇譚のないご意見をいただき、皆さんのご理解・納得いただけるような内容にしたいと思います。

【ご意見】

私は、ボランティアをしております。アウェイサポーターさんで感じているところでは、良いサポーターさんと、悪いと言ったらおかしいですけども、そういう方もいらっしゃいます。熊本サポーターさんもアウェイに行かれると思いますが、良いサポーターさんであって欲しいと願っています。

〔専務取締役 藏原信博〕

それに付随しまして、私も今回に限らず、アウェイの選手紹介のときに、ホームのサポーターのみなさんがあれだけ拍手をすることは他クラブではあんまりないと聞きました。アウェイの選手を紹介するときに、ロアツソのサポーターさんが拍手をする。これは、最初はコロナがあって応援団がなかなか来れないということから起きたのかもしれませんが、今でも、アウェイサポーターさんは来られているのに、ロアツソのサポーターさんは選手紹介のときに拍手をされます。

今おっしゃったように良いサポーターさんだと思いますので、みんなで一緒になって、良いクラブをつくっていきたいと思います。みなさんも良いサポーターさんで、ロアツソファミリーとして今後後押ししていただければ大変ありがたいと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

●司会〔ロアッソ熊本スポーツクラブ代表理事 宮崎幹士〕

ここからは、ご出席されている方、されていない方から、いろいろご質問・ご意見をかなり頂戴いたしました。それをまとめて、各部門で集約させていただき、全てお話しできないですが、それに対する回答を述べさせていただきたいと思います。

●事業面について〔事業部部長 岩水香織〕

本日は、皆様このサポーターミーティングにご来場いただきまして、ありがとうございます。平素からスタジアムに足を運んでくださり、また熱い応援をいただき、感謝しています。今回、皆様より様々なご提案、ご意見をいただきました。それを社内の中で共有させていただき、まとめさせていただきました。

私たち事業部では、チケット・グッズ・広報・試合運営の業務を行っています。

広報面ではメディアや SNS などを活用したプロモーションや告知について、皆様方からご提案をいただきました。私たちも今後、創意工夫を凝らして、より露出度を上げるようにしていきたいと考えています。

また、グッズに関しても、こういうグッズがあったらいいなというご提案をたくさんいただきました。グッズ担当とも共有させていただき、幅広いターゲット層やニーズにお応えできるようなグッズを展開していきたいと思っています。

チケットに関しても、シーズンシート、またファンクラブの特典や、通常のチケットに関するにもご提案いただきました。担当者とも共有をさせていただいており、よりよい特典やサービスを提供できるように検討いたします。

●試合運営について〔事業部運営担当 楠野 亨〕

皆さんが接する機会の多いホームゲームに関することについて、いろいろご意見をいただきました。その中で多かったのは駐車場問題、シャトルバス、アクセス関係です。

まず駐車場問題に関してですが、毎試合クレームと言いますか、1 時間、2 時間メイン駐車場から出られなかった、そういう声は毎日のように毎回のよう聞いております。サポーターの皆様も行政や警察の問い合わせ窓口などに送られているということで、その度にまた私たちに連絡がきます。なかなか難しいところなのですが、警備員を増やしたらどうなのかという話も聞きます。警察と話をしまして、警備員を増やしたり、駐車場の出入り口に信号をつけたらどうなのかとかも以前から相談しています。警察は、信号をつけると今 2 時間で出れているものが、3 時間 4 時間かかる可能性があり、どうしても南北線の渋滞というのが一番問題になるということでした。

メイン駐車場に関しては、出入口を増やしたりするにしても、財政的な問題もあります。ただ、私どももそれを指を加えて見ているわけではありませんので、もちろん今後、J1 が見えてきたり、J1 昇格したりすると、今の駐車場は間違いなく足りないとは十分わかっています。パークアンドライドなど、近くの大きなスペースを確保し、そこからシャトルバスを走らせるとか、その辺りも考えております。

また、みなさんご存知かと思いますが、「タイムズ B」という取り組みをやっておりますが、毎回満車になっております。ただ、数がどうしても少ないので、空き駐車場をみなさんからご紹介いただければ、駐車できる場所もどんどん増えてきますので、よろしく願いいたします。

そのような取り組みを少しずつやっております。ただ急に改善するというのはなかなか難しい状況ですので、クラブとしても、行政や警察とも連携しながら進めているというのはご承知おきいただきければと思います。

シャトルバスは、J3 リーグのときよりも台数は増やしています。ただ、実際シャトルバスに乗る人が入場者数の 7~8%の利用となり、クラブの出費が多く、毎回走らせて赤字というのが現実です。もちろん路線が少ないというのもありますし、なかなか不便というのがあるのですが、今のところ、私もシャトルバスの増便を検討していますが、財政的な問題もあります。今できることは最大限やっているのですが、皆様のご期待には添えていないというのは認識しておりますので、いろいろ調査しながら進めていきたいと思っています。

ホームゲーム運営に関してご意見いただきました。スタッフが少ないのではないかなど、話はたくさん来ているのですが、今できる精一杯の人員でホームゲームをやっております。ただ、今回サポーターミーティングであったように、目が届かない部分は多くありますので、サポーターの皆さんの力を借りることも必要なとは思っています。

ご意見の中であった、最低限の秩序が保たれたスタジアムというのは絶対だと思います。皆さんと力を合わせて、皆さんからこういうこと足りないよとかどんどん言っていただいて、しっかり運営を行っていききたいと思っています。

●集客・イベントについて〔ホームタウン推進部部长 古賀 亮〕

先ほど JFL 時代の赤白帽子のお話をされた方がいらっしゃいましたが、それを考えて実施していたのは私でございます。また先ほどお子様のお話をされたお客様は、JFL 時代はお一人でご来場されていたと思いますが、今はお子さんといらっしゃっています。たぶんおじいちゃんになっても、またご来場されますよね？親子 3 世代でスタジアムに来てもらえるって、理想のことだと思っていますし、もっとも望ましいことだと思っています。

クラブの歴史が長くなってくると、先ほどの赤白帽子のような話は、私たちもうれしいですし、モチベーションも上がります。また、これからクラブの歴史を重ねていくと、今の若いサポーターさんもお子さんやお孫さんをつれてご来場されるような時がくる、そんな素敵なストーリーをみなさん想像することができると思います。

それで何が言いたいのかというと、そんな素敵なストーリーをたくさん作っていくためには、今、集客を頑張らなければならないということです。

事前にいただいたご意見にたいしてお答えさせていただきますと、「チームの成績に反映して、観客数が増加していないことについてクラブの見解を」ということなのですが、正直やばいと思っています。成績が悪くても、お客さんがきていただけるホームゲームを作る、それが我々のクラブの事業の根幹だと思っています。ではその心意気や私の言葉に対してクラブや私がどうしているのかと言われれると、力不足であること、行動が伴っていないことを、大変申し訳なく思っています。みなさんからは集客について、スタジアムでのミニライブやマスケットイベントの実施などへのご

意見やご希望をいただいております。クラブといたしましては、ミニライブもマスコットイベントなどは今後実施をしたいと思っています。ただみなさまからいただきましたご意見・ご希望一つ一つにたいして、「やりますやしません」という回答をするのではなく、集客・ファンづくりということに関しては様々な視点から検討し実施する必要があると、時期的なこと、クラブの財政や状況に応じて、検討していかなければならず、実施できる条件が整った際には、みなさんからの意見を取り入れながら、実施していきたいと思っています。

県内のロアッソ熱をもっと大きくしてほしいというご意見につきましては、まかせてくださいとしか言えません。それにはやはりみなさんの協力が必要であり、一緒に盛り上げていく必要があると思っています。そのためには、みなさんが協力しやすいような環境や仕組みを作っていくことが、私たちの役割だと思っています。例えばポスターの配布や掲出をサポートさんやスタジアムアテンダントさんに際には、手伝ってくださいとお願いすると、みなさん喜んで手伝っていただけます。そういう動きをもっと広めていく必要性があると思います。

重複しますが、今後イベントに力を入れるのか？という質問にたいしては、「はい」とお答えをいたしますが、「イベント」ということに力を入れるのではなく、「いかにお客様にスタジアムに足を運んでいただくか？」ということを考えていきたいと思っています。イベントをやればお客様がたくさん来るということだけではなく、アクセスであったり、プロモーションであったり、スタジアムでの観戦環境・ホスピタリティなど、複数の要因が関係しています。

いま全ての面において、クラブは力不足であると認めざるを得ないと思っています。ですので、全ての面において改善の努力をおこなっていきたいと思っています。集客についてという点で皆さまとお話をし、議論をすれば、たとえば「白岳」を飲みながらでも話をすると、おそらく3時間でも4時間でもできる話だと思います。ここでは、あまり時間もありませんので、本日は、クラブとして勝敗に関係なく、お客様にきていただけるホームゲーム運営を目指してまいりますということを宣言させていただきたいと思っています。

●営業面について〔営業部部长 片山良二〕

営業に対しても数多くご意見をいただきありがとうございます。

営業部はクラブの中でどのような働きをされている方達なのですか？将来についてどういう展望で動いていますか？などのご質問や、ユニフォーム営業はきちんとやっているのか？というご指摘もございました。またありがたかったのは、サポーターにできること、もっと頼ってほしい、できることがあれば教えてくださいというご意見も数多くいただいた事です。

営業に関しては細かい施策についてというよりも、どちらかといえば営業全体の概要について知りたいという意見が多くありましたので、私の方からは営業の現状など全体概要をお伝えしたいと思います。

営業部は、私含めて5名で動いており、パートナー企業が378社、ですから約400社をこの5名で対応させていただいております。ロアッソのパートナー企業の特徴は、7万円から億単位まで多様な商品がございますので、パートナーについては一個人から、大企業まで幅広い層の方々に支えられているのが特徴かと思っております。

昨年の協賛は3億1700万円という実績でしたが、今年2022シーズンの目標は4億円ということ

で、26%増を目標に活動しております。6月時点で3億8000万円~3億8500万円くらいは見えていますので、決算月である1月までの残り8ヶ月で1500万円~2000万円を新規パートナー企業を探したり、実績のあるパートナー企業に追加提案して増額いただくことで達成を目指している状況でございます。

ユニフォーム営業は、もちろん実施しておりますが、なかなか高額のため苦戦をしております。毎年新規候補のリスト、これは県内はもちろん県外含めて、熊本出身の社長様が県外に出て事業をやっているなどの情報も含めて、リストアップして営業しておりますが、なかなか一朝一夕にはいかないという現状です。

今年みなさんもお存知かと思いますが、RKKCS様が鎖骨に入ってくださいました。もともとサポートカンパニーとして長年支援をいただいておりますが、今期ユニフォームパートナーとして更に大きく私どもに支援をいただくことになりました。パートナー企業はいま約400社ありますが、今回の例のように、既にご支援いただいている企業様の中からユニフォームパートナーさんに上がっていただくことも理想的な形だと思っております。これは日々の努力をしていくしかないと思っておりますので、今後もしっかり日頃の営業活動に注力したいと考えております。

次に将来展望についてですが、それをお話する前に、まずは俯瞰してJリーグ全体の中での現在のAC熊本の位置づけをお話させていただきます。Jリーグクラブの収入構造について、広告協賛金、チケット収入、グッズ販売収入などいろいろありますが、概ねどのクラブも広告協賛が全予算の60%を占めているという傾向がございます。クラブの予算の大部分を広告協賛金が占めていますので、チーム規模を拡大していく、Jリーグの上位を目指して安定的に戦っていくためには、このパートナー企業からの広告協賛金による収入を上げていく事が不可欠であると大前提として言えます。その中で私どもの4億円という広告協賛金が相対的にどの位置なのかと申しますと、これは2021シーズンの統計なのですが、J2の22チーム中だいたい16位くらいに位置付けられます。参考までに言うと、大宮さんはJ2で一番高くて約22億円。またカテゴリーは違いましたが同じ九州の大分さんですと、7.5億円あるということで、もっともっと私どもは努力しないとイケないと率直に思っております。

将来に向けて、どういう展望をいただいているか、私どものクラブ中長期計画ビジョンがあり、その中での広告協賛金の目標は、今年の4億円から、5年後に5億6000万円、10年後に9億円、20年後に15億円を目標に掲げています。これが15億円になると、J1協賛金の2021シーズンの平均が19億円でしたので、そこに近づいていく数値設定であります。

まとめると私どもの今期目標は、まず今期の目標額である4億円を達成するという事。そしてもう一つは、5年後、10年後を見据えて、今できる施策を必死に考えていくということだと思っております。ピッチボードなど、様々な広告物がございますが、新たにユニークな商品媒体を増やすこと、またパートナー企業同士の交流を促進するなど、パートナーになることで価値が上がる施策などを考えております。

コロナ以降、オンラインでの会議が導入されて、他クラブの情報を取りやすくなっています。様々な他クラブ様と意見交換しながら、ロアッソオリジナルの体制というものを、何がベストなのかを模索している状況です。これが営業の全てになります。

最後にありがたいことに、サポーターにできることはなんですかということですが、すでにロアッ

ソのサポーターの皆さんには感謝しかないのですが、やはり、パートナー企業の商品を購入していただく、パートナー企業の業績発展を手助けしていただくというのが、何よりも一番です。例えばサポーターさんも今年の企画で、白岳ハリセンというものを作っていただいて、これはチームへの後押しはもちろんです、販売促進に直結する企画ですので、こういったことやっていただいているサポーターというのは、他のクラブでもあまり例を見ないと思っています。心より感謝申し上げます。400社ありますので、どういった企業が支援されているのかを知っていただくこと、そしてそういった企業さんの商品を購入いただくこと、そのような空気をもっともっと広がればありがたいです。もう一つはやはりパートナー企業のご紹介です。ご想像の通り、ご紹介いただく場合はほぼご協賛いただけます。冒頭申し上げたとおり、個人から大企業まで様々な企業様に支援いただいていますので、少しでも身の回りの方々にロアッソを支援していただけるように声かけしていただき可能性があれば、クラブに電話いただいて、営業部にその情報いただければ、飛んで参ります。情報提供いただければ幸いです。

以上、最後は大変厚かましいお願いになりましたが、何卒よろしく願い申し上げます。

●強化面について〔取締役ゼネラルマネージャー 織田秀和〕

事前に寄せられた質問を「前半戦の総括」と「今後の展望（J1への道筋）」の大きく二つに分けて述べさせていただきます。

まず「前半戦の総括」ですが、開幕前に大木監督は全42試合を6試合ずつ7クールに分け、1クールで勝点10の獲得を目標に掲げていました。前半戦21試合での勝点が30、目標勝点を35とすると5ほど未達となりますが、私個人の思いとしては選手たちは非常によく頑張ってくれたと評価しています。トップ3とはやや勝ち点差が開きましたが、幸いなことに混戦状況ですので、プレーオフ圏内の6位以内を十分に狙えるところに位置しています。

得点は昨年並みにとれていますが、失点が多い。昨年のJ3では外れていたシュートもさすがにJ2であれば決められてしまいます。失点を減らすことを目的に守備の人数を増やしてがっちり守る手もありますが、それでは得点が減る可能性がありますし、我々のチームはそういうタイプの選手をそろえていません。単純なミスをなくして、馬鹿げた失点をしないこと、そのために個々のレベルアップが必要だと考えています。

スタメン11人とリザーブの7人で計18人、このあたりのメンバーはほぼ固まってきて安定感がありますが、19人目以降のメンバーとやや力の開きが生じてきました。大木監督の戦術はチームにしっかり浸透していますから、後半戦に向けては個々のレベルアップを図りながら、チーム全体の底上げに取り組んでまいります。

次に「今後の展望」についてですが、いつJ1に上がるのか？という問いに対して、それはいつとはわかりません。プロサッカークラブである以上、J1を目指すのは当たり前で、毎年J1昇格を狙っています。現に今年もプレーオフ圏内に入ればその可能性はあります。何年計画という作文は可能ですが、このクラブでは活躍した選手は抜かれ、監督やGMですら変わる可能性があります。せっかく計画を立てても絵に描いた餅になってしまいます。そんな作文をすることよりもこのクラブがどんなサッカーをするのか？選手を育てながら、アグレッシブで攻撃的なサッカースタイルを確立し、選手や監督やGMが入れ替わっても、揺るぎないサイクルを作ることが重要だと考えており

ます

夢のない話にはなりますが、昨年のロアツソの経営規模が5億円、今年は7億円を見込んでいます。しかしJ2平均は15億円、J1平均は30から35億円になります。各クラブの保有選手数が25から30名でほぼ同じです。選手の能力評価は年俵で推し量られますから、今の我々がJ1で闘うということは簡単ではないと思います。とはいえ、チャンスはあると思いますので、そこを目指して努力していきますし、いまの7億円の経営規模を10億円に、そして15億円位と地道に積み上げていかないとJ1で安定した闘いができるクラブにはなっていないと思います。

チームはモチベーション高く取り組んでくれています。魅力的なサッカーにはなっていると思います。チームを強くするためには、皆さんの力が必要ですので、どうか、より一層のチームへの後押しをお願いしますとともにご意見等ありましたらぜひお聞かせいただければと思います。

●司会〔ロアツソ熊本スポーツクラブ代表理事 宮崎幹士〕

これだけは聞きたい、これだけは話したいということがあれば、ご質問承りたいと思います。

【ご意見】

本日は貴重な場をもうけていただきありがとうございます。先ほどの集客の件ということで、いろいろクラブ側の方で努力をしていらっしゃるというのはものすごく強く伝わったのですが、繰り返すようで何ですが、せっかく今年すごく良いチーム状態で、成績もすごく良いのに、観客がいつも少なく、もったいないとすごく思っています。引き続き、自分のようなサポーターもできる限り声掛けをしていきたいと思ったり、クラブの方にももっと宣伝をしていただきたいと思ったり。一つ提案という形にはなるのですが、今、熊本市内の方で下通とかアミュプラザとか、人が集まる所たくさんあるんですけど、そういうところをいつも歩いていて思うのですが、あまりロアツソについて話題にするような宣伝物とかが極端に少ないなという風に感じます。下通であれば選手の旗とかがいっぱい掲げられているのですが、ただ正直言って自分の周りの人でも今ロアツソがすごくいい位置にいるとか、下手したらまだJ3になるんじゃないのって言う人が多かったです。ロアツソが今どういう状態かを県民の人たちもあんまり分かってないと思います。

一つの提案ではあるんですけどもすごい人通りが多いところで、サクラマチであったりだとかピブレスとか人が集まるような所に、今ロアツソがこういう順位で素晴らしいところにいますよとか、今度ホームでやるのでみんな来ようとかそういった宣伝するようなものを、もっとたくさん出して頂きたいと思ったり。

できればこのシーズンが終わるまでには、いろいろ予算とかあって難しいとは思いますが、宣伝とかそういった掲示物をもっともっと増やしていただきたいなと思ったり。

〔ホームタウン推進部 古賀 亮〕

ご意見ありがとうございます。おっしゃる通りで今後は是非取り組んでいきたいと思っています。人通りが多いところは、正規料金の広告料を考えると高額な費用が必要になってくるかと思っています。それであれば、その広告費をスポンサー契約の代わりにしてもらおうとか、広告を掲出してもらおうことで、双方に利益のある関係を作っていけるような新しい提案をしていかなければいけない

と思っておりますので、引き続き努力させていただきたいと思っております。

昨日も託麻まちづくりセンターに、試合告知ボードを置かせていただきました。現在ロアッも熊本県や熊本市からはいろいろと協力をいただいている、熊本市役所ロビーや東区役所などに関しましては少しずつ露出が増えてきているかと思えます。

お話の合ったショッピングセンターなどの露出が大きいところ、このような小さいところそれぞれありますが、その両方で実施していかなければならないと思っております。

また良いご意見があれば頂戴できればと思えます。

【ご意見】

今日はいろいろとありがとうございました。頭の中のハテナ印が少しは消えた気がします。私の方からの提案なのですが、こういったせっかくないい機会を設けていただいたので、今後定期開催にしませんか。前半戦終わって1回やっていますので、次は最終節終わって10月ごろ11月頃ぐらいでしょうか。とにかく定期開催をして、先ほど専務もおっしゃいましたけど、我々での意思疎通をぜひ密にさせていただきたいと思えます。よろしく願います。

〔代表取締役社長 永田 求〕

本当にありがとうございました。今、いつ実施するということは約束できませんけども、ぜひ実施したいと思っております。

【ご意見】

本日は、こういった場を設けて頂きありがとうございました。皆さんのこういった熱い気持ちを聞いて、ぜひもう一度お伝えさせていただきたいと思うのは、安全なホームゲーム運営において、サポーターの席からの情報提供というところを求められました。そこはぜひ慎重になっていただきたいと思えます。サポーター同士の対立だとか、団体同士の対立だとかそういったところを招いてしまうのではないかと。やっぱり物的証拠を取るということは、こうやってカメラを取り出して向けるわけです。向けられた側は気づくのではないかなと思えます。サポーターの皆さんの日常は、スタジアム出てからも続くわけです。もし私が私の意に沿わない形でカメラを向けられ、入場禁止の処分を受けました、となったとき、私は非常に言葉では言い表せないような感情を持つでしょう。運営の皆さんの言葉もありましたが、スタッフの皆さんから情報を入手するような取り組みが必要になるのではないかなと思えます。クラブとしてこの後、議事録を発行され、情報発信されると思うのですが、かなりその表現は気を付けていただいた方が、ここでお話を聞かせていただいた私たちは気持ちを直接受け取って、意図を十分に理解していると思うのですが、それは両方受ける側にとっては、ほんの一部にしかすぎませんので、そういったリリースの部分に関してはちょっと慎重にいただきたいなと思えます。

一つ重苦しい雰囲気にしてしまい申し訳ないのですが、一つお願いがございます。クラブスタッフのみなさんが今着用されているポロシャツがとってもかっこいいなと思えますので、ぜひ販売していただきたいなと思えます。

【ご意見】

以前ロアツソオフィシャルショップがあったのですが、今後ロアツソショップとかはされないのでしょうか。あった方がホームゲームの時に、これ買い忘れたとかあって、またグッズの売り上げにつながるんじゃないかと思いました。もしショップでなければ、ほかの店でロアツソのグッズを置いてほしいなと思いました。色々見てるんですが、ロアツソのグッズを置いてる店があるのかないかわからないのですが、もしあったらいいなと思ひましてよろしかったらお願いいたします。

〔事業部 岩水香織〕

以前ロアツソのオフィシャルショップがあり、イベントを実施したり、サポーターのみなさまにグッズやチケットなどを買いにいらっしやっていただきました。私たちのクラブ経営状況もあり、現在は運営しておりません。ロアツソのオフィシャルショップでもグッズが買えないけれど、他のところでグッズを買えないかというご意見もありがとうございます。現在はホームゲーム会場でのグッズ売場以外はオンラインショップでの販売がメインとなっていますが、パートナー企業等含めご協力していただけるところがあるかもしれませんので、グッズ担当や営業担当とも共有させていただきます。

〔ロアツソ熊本スポーツクラブ 宮崎幹士〕

今の件で少し補足させていただきます。予算人件費的なこともあります。Jリーグの方向性としてオンラインストアの販売を強化していくということも要因の一つになります。また、ホームゲーム時にスタジアムでご購入できるので、集客にもつなげて一緒に応援していただけることを強く願っています。ご理解いただければと思います。一方、町のどこかにロアツソのアンテナショップ的な場所も必要であると、クラブとしても思っているところです。貴重なご意見ありがとうございます。

●司会〔ロアツソ熊本スポーツクラブ代表理事 宮崎幹士〕

長時間にわたりありがとうございました。以上でサポーターミーティングを閉会させていただきたいと思ひます。先ほどおっしやっていたように定期的とかポイントポイントでこういった会を開きながら「明日につながるクラブ」として意見交換やご提案をいただければと思ひております。今日は誠にありがとうございました。